

Our Life 130号

*内 容 *

- 基礎構造改革から今 改めて、地域のニーズ把握を基に 25 年目の福祉文化実践を検証 …P.1
- 厳しい地域社会を見据えて 第1回から第2回公開型研修会を展開する ……………P.2
- 第25回調査活動は「ご近所福祉その意識と実態調査」を「協働」で取り組む……………P.3
- 学会全国大会・静岡大会から始まった「福祉文化研究セミナー」は 19 回目を迎える
- 「事務局日誌拝見」「編集後記」 ……………P.4

「基礎構造改革」から今 ……………

改めて、地域のニーズ把握を基に、25年目の福祉文化実践を検証

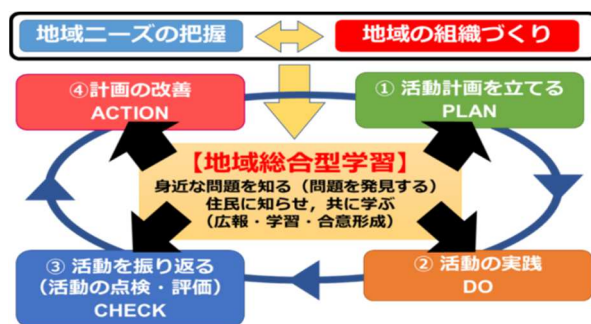
マスクからは、「ウイズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」「新しい生活様式」非対面社会」等が伝わってくる。これからの地域社会はどのように変わっていくのだろうかと気になるところである。

新型コロナウイルス感染拡大防止徹底の状況下で、気がつく、令和2年度は、早や3カ月（1/4）が経過した。本会も、これまでの活動を停止させることなく、大きく変わることが予測される、次なるステップを真剣に練っている。本会の「活動目的」と「活動基調」を基に今年度の計画をいかに具現化し「地域課題の把握」をし、浮き彫りになった課題をいかに改善・解決するための取り組みを「協働」で展開できる努力をしていきたい。

左図のように、これまで、本会の活動は、「24年間継続的に取り組んできた調査研究活動」、今年度は「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組む。5年ごとに「ご近所」に焦点を合わせた調査結果を考察する。「地域総合型学習」は、本会の福祉文化実践活動から生み出した言葉。結成以来

今日まで、特別な講師を招かず、参加者主体、世代を超えた「公開型研修会」により、調査結果や、参加者からの地域発の意見をもとに、議論を深め合う。さらに、「現場検証研修の機会を持つ」努力もしてきた。

本会は、年間活動テーマ「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か—ご近所福祉の復活—」に取り組む。



平成9年代（1997年）に「社会福祉基礎構造改革」が、私たちの目の前に示された。

社会福祉基礎構造の抜本的改革の方向性として「7つ」示された。まず、「サービスの利用者と提供者の対等な関係の確立」「個人の多様な需要への地域での総合的な支援」「幅広い需要に応える多様な主体の参入促進」「信頼と納得が得られるサービスの質と効率性の向上」「情報公開等による事業運営の透明性の確保」「増大する費用の公平かつ公正な負担」と掲げられていた。驚くことに、7つ目の改革の方向性として「住民の積極的な参加による福祉文化の創造」が行政言葉として取り上げられていたことである。私たちは今でも、「福祉文化の創造」こそは、住民一人一人のめざす言葉として大切にしたいところである。あの時、あと3年後には、福祉は聖域ではなくなる。制度による仕組みで、地域の問題は全て解決されるとも認識した。あの時代、尊い在宅福祉を担っていた「ボランティア」の皆さんが「もう、私たちは要がなくなった」と訴えていた。いっぺんに「共助の社会」が大きく変わり、「ボランティア活動」の認識も希薄化してきているようにも感じられる。「介護の社会化」……「介護保険制度」の誕生から20年間、節目ごとに、制度改正が行われ、今、私たちの周辺では、「協議体」「生活支援コーディネーター」「地域の支えあい」「支えあいの仕組みづくり」「生活支援」と数々の福祉用語が、十分に住民に理解されないままに、地域単位で、意図的な組織づくりが進められている。

25年目の節目を迎えている本会は、「福祉文化の創造とは何か」を常に探求する実践活動を展開したい。

厳しい地域社会を見据えて 第1回から第2回公開型研修会を展開

研修テーマは、—私のご近所、これからのご近所を創るための診断—

コロナ禍の今日、25周年の節目を迎え、本会は、2020年度の活動計画に基づき、これまでの福祉文化実践のプロセスを大切に、今こそ求められている「地方発 福祉文化の創造」を発信できるよう努力し、3か月が過ぎた。「第1回公開型研修会」（4月19日開催予定）は、会場使用制約等諸般の事情により中止をした。6月21日に開催した「第2回公開型研修会」（NPO 法人泉の会「寄ってっ亭」内）では、中止した第1回研修会のプログラムを一部導入して、少人数の参加者であったが、和やかな雰囲気の中で展開した。

特に、今回の研修会では「アイスブレーク—若者発 ご近所福祉かるた—」で紹介する「私のご近所」のプログラムでは5年前に制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を今年度の活動で復活させるべく、新しいかるたの活用方法を試みた。

参加者は、会場中央に、裏返しにした「読み札」を自由に3枚選ぶとともに、表にした同じ文字の「絵札」も手元に持ちながら着席。参加者は、順番に「読み札」1枚を手にして「読み札」関連する、自分の地域のご近所を紹介し合った。

いくつか、紹介された内容を紹介しますと、

「運動会 ご近所みんなて応援だ・・・なんと、48年も続く自治会体育大会、唯一、地域ぐるみの居場所的機能を継続していくことの難しさがある。役員の負担、選手選びが大変」

「手伝いは 子どもの心 育ててく・・・家庭環境から、子どもの手伝いが少なくなっている。意図的に機会を与え、誉めることを通じて、地域参加につなげていく」「はじめの一步 勇気を出して 地域デビュー・・・特に、若い世代の地域参加が少なくなっている。地域の課題を見える化して、参加の機会を多くしていくことが必要」等が語られた。

基調報告「この1年を振り返る 25年目への挑戦 “ご近所福祉”を創る」では、24年間の本会の年表をもとに、その時代、時代の地域課題を活動テーマに取り組んできたこと、そして、2019年度の取り組みでは、「子どもを育む地域づくり」から、提唱した20の項目（詳細は、本誌129号3Pでまとめている）は、全ての「地域づくり」に活かしたい項目であることを強調した。これらを総括的まとめると、「大人の意識改革が今求められていること・・・具体的には、与えられる福祉から、参画・創造する福祉の転換」「地域づくりは、あくまでも、住民主体とはいえ、専門性と市民性の融合が必要であること」「地域社会をトータルにコーディネートする機能が求められていること」「家庭・地域との連携機能を活かすこと」「常に、「見える化」心掛ける 広報啓発活動の取組み」「活動は、終始啓発活動に終わることなく問題解決できる仕組み(組織化)づくりに心掛ける」「子どもや若い世代の意見を受け入れられる、語れる地域環境づくりを心掛ける」等があげられる。

そして、2020年度のキーワードとしてあげた「ご近所福祉の復活」は、今日、公助・制度で全て問題解決できる社会であるという認識から、今一度「共助の社会」再構築出来ないかの視点から、本会は、5年毎に取り組んできた、この活動テーマを掲げたことを紹介した。最後のプログラム「ワークショップ：住民主体で、これからのご近所を創る（診断）」は、まず、5年前の「ご近所福祉その意識と実態結果」のデータから考察した。そして、地域診断として、「私のご近所を診断する」と題して、参加者の生活圏域の「福祉力」を評価する作業に取り組んだ。「当事者力」「福祉文化力」「たすけあい力」「助け力」「問題解決力」は、今後の課題として、浮き彫りにした。最後に、今年度の調査活動の取り組みを確認して閉会した



●第25回調査研究活動に取り組む 「ご近所福祉」のこれまでとこれからを探る 「ご近所福祉その意識と実態調査」を‘協働’で取り組む

本会では、結成以来、24年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めている。これまでの調査研究活動を振り返ると、

- ①「共働きに関する調査」 ②「私たちにとって、地域とは何かーその1ー意識と実態調査」 ③「私たちにとって家族とはなにか調査」 ④「父親に関する調査」 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」 ⑧「地域とはなにかーその2ー意識と実態調査」 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査) ⑩「子どもと社会環境に関する調査」(総括) ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査(静岡県共同基金会助成事業)」 ⑬「日常生活と福祉情報に関する調査」(静岡県委託事業)
- ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業) ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとはなにか本音に迫る調査」(静岡県委託事業) ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業) ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業) ⑱「長寿者をつながる ホットするご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業) ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業) ⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」㉑「ご近所福祉 その意識と実態調査」㉒「居場所ってなに その意識と実態調査」㉓「子どもを育む地域づくり その意識と実態調査①」 ㉔「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査②」 「256名の子どもたちに聞きました ホットする地域ですか調査」と、「24のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

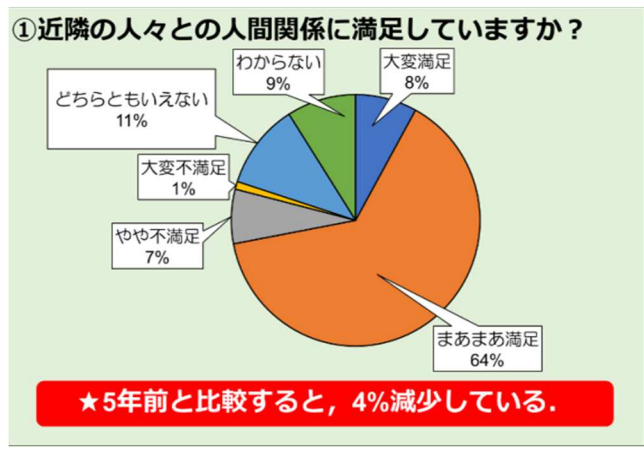
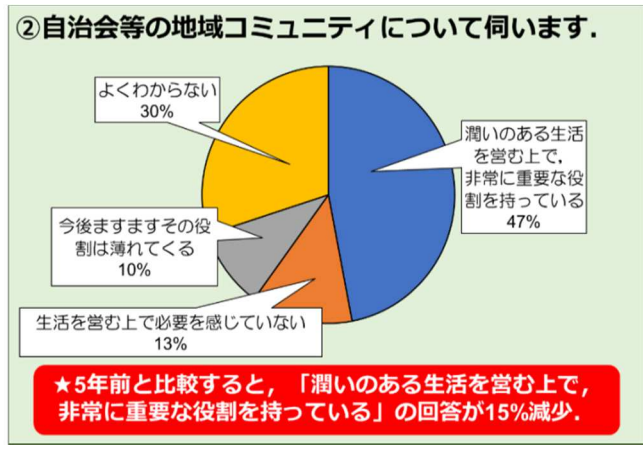
今年度は、「焼津福祉文化共創研究会」(2016~2018年度の3年間にわたり、約5,000世帯の中学校校区で公民館を拠点とする、2つの自治会組織で構成する地域で、住民主体の「港地域ささえあい講座」に取り組み、この講座に関わった実行委員有志と市民により、2019年度に「生活圏域の福祉問題に取り組んでいる志縁団体」と「協働」により、「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組む。

今年度の調査研究活動は、厳しいコロナ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いから、これからの支え合いについて、全県域と地域性を中心に住民の意識と実態を把握し、これからの「ご近所福祉」のあり方について、住民主体に、調査個票の作成検討をはじめ、調査協力として調査依頼・回収、データ入力・考察等の本調査研究活動に積極的に参画していただき、これからの地域の課題改善・解決に向けた研究活動として取り組む。

調査項目は、(1)基本属性(2)地域との関わりの意識(3)地域との関わりの実態(4)地域環境(組織化、地域行事)(5)地域参加の動向(6)提言(自由意見)をもとに、約30の設問項目を検討。

これからの調査展開は、(1)調査項目・調査票検討/6月~9月 定例会・委員会及び調査研究会等で検討 (2)調査票まとめ/9月30日 (3)調査依頼(実施期間)/10月1日~11月30日 (4)回収期間10月1日~11月30日 (5)入力期間/10月20日~12月10日 (6)分析・考察/12月10日~1月20日 定例会・委員会及び調査研究部会で実施 (7)公表・報告/令和3年2月下旬

● ● 5年前の調査結果から2つ紹介 ● ●



第13回学会全国大会・静岡大会（平成14年11月）から始まった「福祉文化研究セミナー」19回目を「日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会」を兼ね10月25日に開催します。

ぜひ、ご参加ください。参加費:無料 定員:20名

テーマ:「ホッとするご近所のささえあいには誰が創る？」

「富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに、42名の実行委員で、全国各地から650名が参加した「第13回学会大会静岡大会」（裾野市）。この火を消さない様にと、県内で「セミナー」継続開催し、今年度19回目です。今回は、「ご近所福祉と福祉文化」を議論します。

- 期 日：令和2年10月25日（日）13:00～16:30
- 会 場：NPO法人泉の会「寄ってっ亭」（〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17 TEL054-367-2878）
- 内 容：(1) 問題提起 「誰がご近所福祉を創るのか、気になるこの先・・・」
(2) 円卓トーク「近所福祉に関わって」
(3) ワークショップ「ホッとする こんなご近所福祉をめざして」

* 参加申し込み・問い合わせ：〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田厚 TEL&FAX054-624-1924

事務局日誌拝見（4/11～7/20）

- 04/11 第13回（4月）焼津福祉文化共創研究会開催（「研究会通信第7号」発行）
- 04/17 「太陽生命厚生財団助成事業申請書」提出（9月可否連絡、10月振込あり）
- 04/19 第202回委員会及び第1回公開型研修会中止 「OUR LIFE129号」編集作業
- 04/30 会員宛に、全体会各種資料、「OUR LIFE129号」発送作業
- 05/10 「2021年度静岡県赤い羽根共同募金助成事業」申請書作成
- 05/11 日本財団CANPAN登録連絡（修正・更新の必要あり）・「静岡福祉文化を考える会」要覧作成 05/12 「2021年度静岡県赤い羽根共同募金助成事業申請書」提出（持参）・会計に関する連絡調整
- 05/16 第14回焼津福祉文化共創研究会開催（「研究会第8号」発行）
- 05/17 「みずほ教育福祉財団助成申請書（資機材助成）」提出
- 05/25 静岡市清水区由比地区現地訪問実施（協議体の取り組み状況）
- 05/31 静岡市社協VCからの「基礎調査」回答
- 06/13 第15回焼津福祉文化共創研究会開催（「研究会第9号」発行）
- 06/15 第2回公開型研修会開催(6/21)再確認に伴い、関連資料等の作成作業実施
「OUR LIFE130号」企画・編集作業実施
- 06/21 第202回委員会及び第2回公開型研修会開催
- 06/30 第16回焼津福祉文化共創研究会開催（「研究会第10号」発行）
- 07/01 「OUR LIFE130号」発送作業

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、2020年度に25年の節目を迎えました。さらに、「静岡発 福祉文化の創造」が定着していけるように努力してまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編 集 後 記

今回で、本誌は130号発行。24年間で、平均月5回の発行ではあるが、学会大会全国大会直後の平成15年度は発行ゼロ。平成17年度は何とか1回発行。本誌発行の役割は、「県域（過去には県外にも会員がいた）の会員相互に、静岡発 福祉文化の創造を共有すること」「地域づくりを“福祉文化”の視点で取り組む呼びかけ」「関係機関・団体等との協働の呼びかけ」「“福祉文化”を見える化、見せる化、わかる化する」等が掲げられる。これまで、24年間のうち12年間、共催事業、助成事業、委託事業等に取り組んだ、その経過・成果を本誌から発信した。